

『発掘宇治'15』

平成27年度 発掘調査・文化財速報



乙方遺跡（川跡）発掘調査現地説明会（5月）



庵寺山古墳公開（5月・11月）



史跡宇治川太閤堤跡保存整備フォーラム（1月）



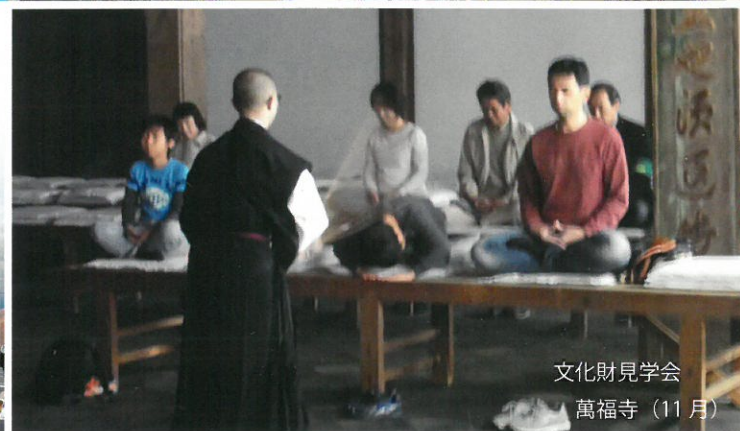
史跡宇治川太閤堤跡整備工事（12月～3月）



乙方遺跡レンガ工場跡発掘調査（6月～7月）



大幣神事（6月）



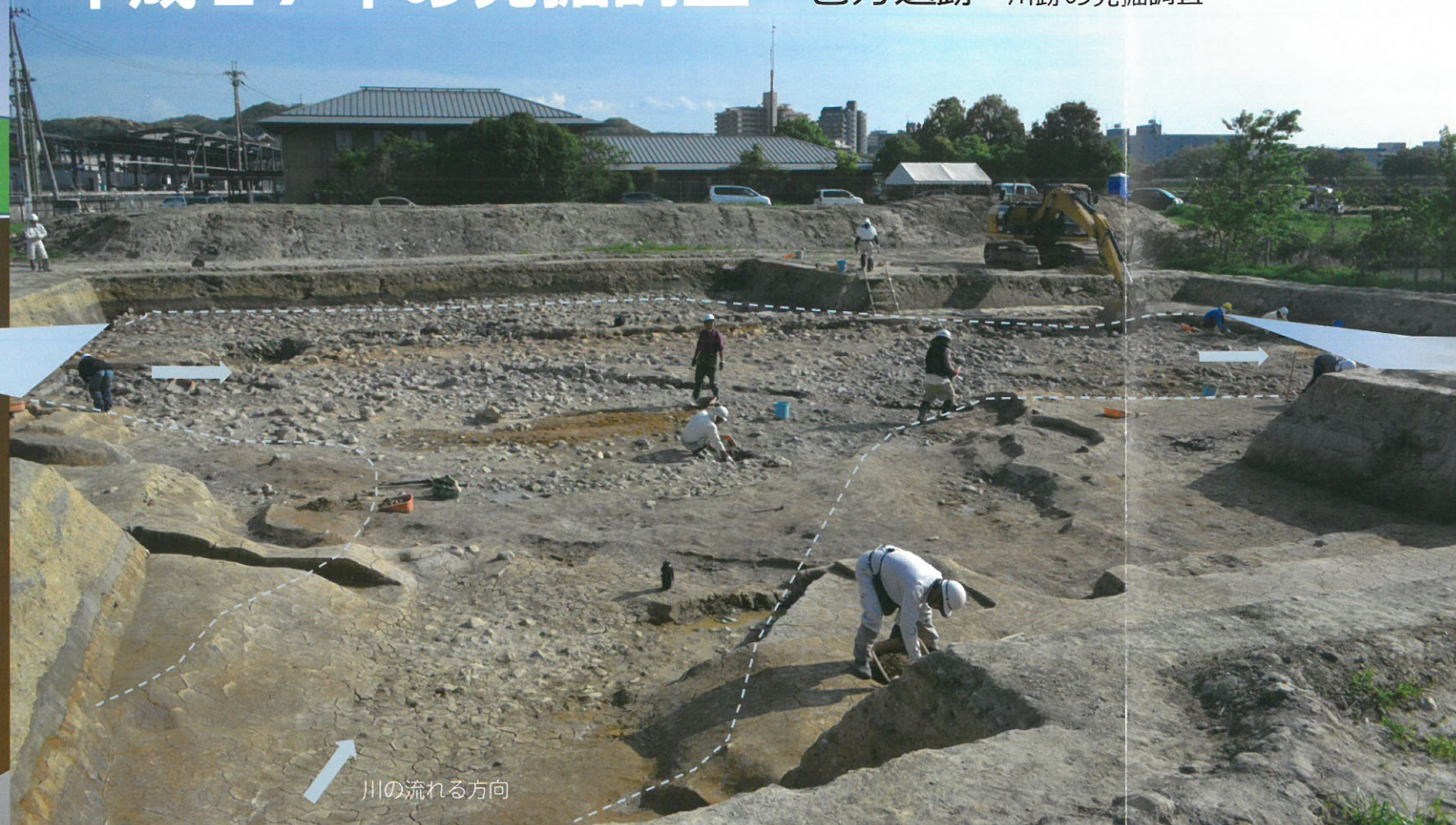
文化財見学会
萬福寺（11月）

宇治市歴史まちづくり推進課

平成27年の発掘調査

乙方遺跡 川跡の発掘調査

乙方遺跡は、宇治橋からすこし宇治川を下った右岸にあります。遺跡は、宇治川が川岸を削ってできた河岸段丘の上に広がるとみられます。これまでの調査では、弥生時代から古墳時代の集落跡のほか、宇治川沿いで安土桃山時代に豊臣秀吉がつくらせた太閤堤の護岸施設が見つかり、史跡宇治川太閤堤跡として国の史跡に指定されました。また交通の便利なこの場所では、江戸時代には瓦屋、明治時代にはレンガ工場が営まれました。



川の流れる方向

発掘した川の跡
← (北から撮影)



調査位置図

今回の調査では、東側の丘陵から宇治川へ流れ込む川の跡(上の写真:左手から右手)を見つけました。川は上半部が後世の耕作で削られ、深さ40cmほどの川底が残っているだけでした。川幅は狭いところは3m程度ですが、広いところでは6m以上あり、両岸を確認することができませんでした。

川の中は砂で埋まっており、砂の下層からは弥生土器、上層からは古墳時代から奈良時代の土器が出土しました。土器はほとんどが割れていましたが、破片が大きく、流された痕跡が観察できないことから、近くの岸边から投げ込まれたとみられます。

川の南側では、平成4年に実施した発掘調査で、弥生時代から古墳時代の竪穴住居などの跡が見つかっています。土器は北側の川岸近くからも出土しており、南側だけでなく北側にも集落があった可能性が考えられます。



←出土した土器
奈良時代の須恵器



出土した土器→
弥生時代の壺



土器を発掘している様子→



土器の出土状況
川岸の近くに散らばっていました。

■ 乙方遺跡 レンガ工場跡の発掘調査

明治時代のレンガ窯の発掘調査を行いました。このレンガ工場は明治42年の地図に描かれており、宇治発電所の建設に際して、レンガを供給していたと考えられます。

これまでの調査で、宇治川の河岸段丘崖に取りつく3基のレンガ窯を確認しています。今年度は平成25年度にみつかった3号窯の河岸段丘崖への取り付け部分の調査を行いました。前回調査では窯の床のレンガが残っていましたが、今回は窯を撤去したとみられる大きな掘り込みがあり、その中に大量のレンガが、捨てられていました。



明治42年測量地形図↑



平成25年度調査：3号窯



今回調査：3号窯

史跡宇治川太閤堤跡は今！

太閤堤は、安土桃山時代に豊臣秀吉が宇治川・淀川に築いた堤防です。平成19年に宇治橋下流の右岸でその一部が発見され、平成21年に国の史跡に指定されました。現在、史跡公園として整備を進めています。史跡地北半部は、安土桃山時代に秀吉が築いた壮大な石積護岸と当時の宇治川を再現します。



整備イメージ



基礎造成工事をしました。

南半部は砂州に埋もれてゆく太閤堤とそこに営まれた茶園を再現します。



砂州地形を復元しました。



お茶の苗木を植えます。

